

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

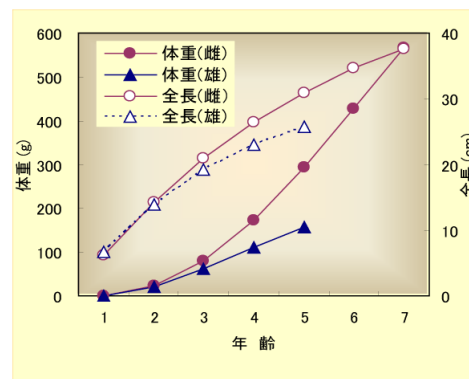
系群名 日本海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 8歳
成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
食性: エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者: エビジャコ類(幼稚魚期)

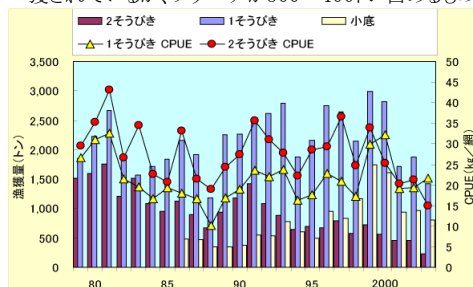


漁業の特徴

日本海西部海域では、1そうびきと2そうびき沖合底びき網(沖底)、小型底びき網(小底)などの底びき網や刺網、釣・はえ縄等で漁獲されているが、漁獲の大半は底びき網によるものである。1そうびき沖底の漁場は島根県以東の海域が中心、2そうびき沖底は対馬周辺海域～島根県沖が漁場である。1988年以前は、1そうびきと2そうびき沖底の漁獲が底びき網による漁獲の80～90%を占め、残りが小底によるものであった。1988年以降は沖底の漁船数が盛期の50～70%に減少したこともあり、近年は小底による漁獲割合が若干高くなっている。

漁獲の動向

過去20年間の沖底の漁獲量は1,900～4,400トンで変動が大きいのが特徴である。小底の漁獲量は400～1,700トンで、1998年以降は急増してきた。しかし、2001～2003年の沖底及び小底の漁獲量は低調に推移した。特に、2003年の沖底の漁獲量は過去最低となった。2003年に日本の200海里内において韓国漁船により700トンのカレイ類が漁獲されているが、ソウハチが300～400トン占めるものと推定された。

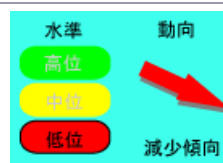


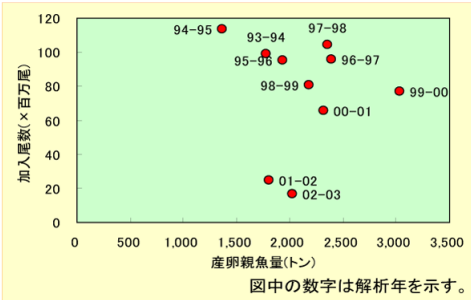
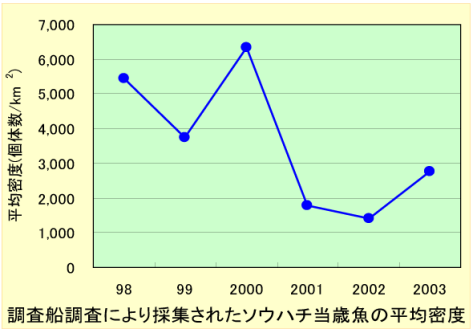
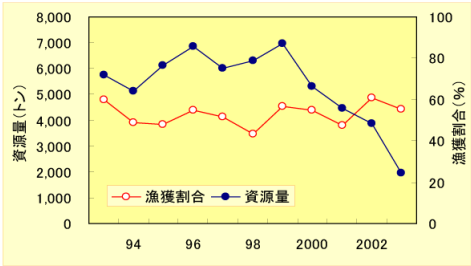
資源評価法

ソウハチの耳石に形成される年輪に基づいて全長一年齢一入り数(銘柄)換算表を作成した。この換算表を用いて島根県浜田漁港における2そうびき沖底により水揚げされたソウハチの年齢別漁獲量を算出し、沖底漁獲成績報告書の漁獲量に引きのばし、1993～2003年の本系群の年齢別漁獲尾数を推定した。誕生日を4月とし、4月～翌年3月を年級群解析の単位とした。M=0.3とし、コホート解析を実施した。

資源状態

2003年の資源量はわずかに1,965トンで漁獲割合は56%と高い値を示した。1999、2000年の漁獲の増大の影響により2001年以降の漁獲量、資源量ともに減少傾向にあると考えた。また、2001～2003年級群の加入量も低調であり、再生産成功率も著しく低いことから資源は低水準で減少傾向にあると判断した。

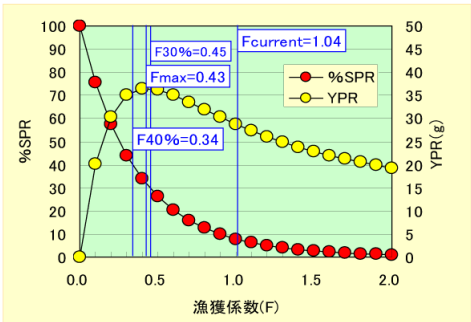




管理方策

漁獲量を過去の平均的な水準に回復させるためには、産卵親魚を保護し、加入を助長する必要がある。そこでFlimitをF30%、Ftargetを不確実性への配慮からF30%×0.8としてABCを算出した。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	500トン	F30%	0.45	30%
ABCtarget	400トン	0.8F30%	0.26	24%



資源評価のまとめ

- 2003年の沖底の漁獲量は過去最低であった
- 1999、2000年の漁獲の増大の影響により2001年以降の漁獲量、資源量ともに減少傾向にある
- 2001～2003年級群の加入量も低調であり、再生産成功率も著しく低いことから資源は低水準で減少傾向にあると判断した

管理方策のまとめ

- 漁獲量を過去の平均的な水準に回復させるためには、産卵親魚を保護し、加入を助長する必要がある
- FlimitをF30%、Ftargetを不確実性への配慮からF30%×0.8としてABCを算出した

資源評価は毎年更新されます。